

2018年5月13日

公益社団法人日本語教育学会  
会員各位

公益社団法人日本語教育学会  
会長 石井恵理子

文部科学省委託

「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」  
**「モデルプログラム案」検証協力者の募集について**

公益社団法人日本語教育学会は、2017年度に文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」を受託し、研究調査・及び開発事業を進めてまいりました。2018年度には、2017年度に開発した「モデルプログラム案」の検証をいたします。「モデルプログラム案」検証に関しましては、広く、その有用性について、検討することが求められております。

そこで、日本国内の大学で、学校教員養成、日本語教師養成に関わっていらっしゃる会員の皆様で、「モデルプログラム案」検証にご協力いただける方を募集いたします。

以下、検証の内容と方法、応募の要件等について、簡単にご案内いたします。検証への協力に関心をお持ちになられた方は、東京外国語大学で開催される春季大会2日目、2018年5月27日（日）12:10～12:50（於101教室）に実施いたします本事業の説明会にぜひご参加ください（説明会のご参加には大会参加費が必要です）。ご参加が難しい場合は、下記までお問合せください。

<本件連絡先>

本事業調査研究本部代表 齋藤ひろみ（東京学芸大学）

mo.mo.pro.model.program@gmail.com

（連絡担当：工藤聖子・橋本千恵）

公益社団法人日本語教育学会 本事業担当：白石あゆみ

Tel 03-3262-4291 E-mail:office@nkg.or.jp

文部科学省委託 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修  
「モデルプログラム案」検証協力者の募集

次の要領で、日本国内の大学・大学院で学校教員養成・日本語教師養成に携わる方の検証協力者を募集いたします。ご関心をお持ちの方は、ぜひご応募ください。

## 1. 検証の趣旨

2017年度(平成29年度)に開発したモデルプログラム案について、大学における学校教員養成課程、  
或いは日本語教師養成に関わる専攻等で検証を行い、その有効性を検討し、モデルプログラム(最終  
版)の開発の参考にします。検証協力者は、モデルプログラム案に基づき、教職課程、或いは日本語  
教師養成を行う専攻・コースにおいて、「外国人児童生徒等の教育」あるいは「日本語教育」等に  
関する科目で、受講学生を対象に、実施大学の科目設置の目的・目標や、受講学生の経験や関心、  
その他の条件に応じて、コース或いは1~数単位時間の授業の指導計画(カリキュラム)を作成し、  
それに基づいて授業を行います。実施前後に、モデルプログラム案の有用性を、次の2つの観点から、  
アンケート調査等をもとに分析し、本事業本部に報告します。

1) 授業・研修設計におけるモデルプログラム案の有用性・利便性

2) モデルプログラム案に基づき実施した授業・研修の効果

検証の実施期間は、2018年6月~2018年12月とします。その検証結果は、2019年2月に実施するフ  
ォーラムで公表し、2018年度末に、モデルプログラム活用事例集として発行します。

## 2. 検証協力の内容

### 協力者会議への出席

↓ 「モデルプログラム」の構造・内容の説明と、ワークショップ(以下WS)「モデルプログラムの活  
用—ニーズ・目的に応じた研修・養成カリキュラムの設計」を行います。

※旅費(実費)と会議出席謝金を準備しております(詳しくは、3(4))。

### 授業の実施計画(カリキュラム)の設計

↓ 協力者会議において設計した養成カリキュラムを、更に整え、実施計画(カリキュラム)  
に仕上げます。協力者会議の後も、本事業の部会委員が必要に応じてコンタクトを取り、カリキ  
ュラム作成にご協力させていただきます。

### 授業の実施

↓ 作成したカリキュラムに基づき授業を行います。授業前後に次の3種のアンケートを行ってくだ  
さい。

① 「日本語指導に関するビリーフ」(授業の前後で実施)

所定の質問紙を利用します。計画した授業の実施前、実施後に行い、その変容を見ます。

② 事後アンケート(授業への期待と満足度について問う)

所定の書式に則り、授業で取り上げた項目について質問紙を作成して実施します。

- ③授業者アンケート（授業の成果として、受講学生の理解や満足度に関して、授業者が振り返る）  
②に同じ

#### モデルプログラム案の有効性の検討

- ↓ 授業時の受講学生の参加状況、受講学生、授業者アンケートなどから、本モデルプログラム案の有効性を検討します。検討の観点は、報告書様式に示します。

#### 実施結果の報告

- ↓ 実施後 3 か月以内に、本事業事務局に、実施報告をしてください。報告においては、次の資料をご提出いただきます。★所定の様式・アンケート等については、後日改めてお送りします。
- a. 報告書（実施状況等に関する項目からなる所定の様式を利用）
  - b. 授業（科目全体の）計画（本事業の「カリキュラム」の様式を利用）
  - c. 授業時に利用した資料・ワークシート
  - d. 受講学生へのビリーフ調査、事後アンケート調査の結果  
（調査紙とその結果を Excel に入力したデータ）

### 3. 検証事業協力者会議について

- (1) 日程（モデルプログラム、その検証に関する説明、活用のための WS）

会場：東京 時間：13:00～17:00（予定）

実施日	内容
1 6月2日（土）	検証の手続き・カリキュラムの設計・研修内容と方法（※参加対象外）
2 7月7日（土）	検証の手続き・カリキュラムの設計・研修内容と方法・事例検討
3 7月29日（日）	検証の手続き・カリキュラムの設計・研修内容と方法・事例検討
4 9月1日（土）	検証の手続き・カリキュラムの設計・研修内容と方法・結果のまとめ方
5 10月6日（土）	検証の手続き・カリキュラムの設計・研修内容と方法・結果のまとめ方
6 2019年1月5日（土）	実施報告会（団体での応募の場合は、どなたか一人は報告者としてご出席ください）

- (2) 会議構成員

モデルプログラム検証協力者会議を、本事業の調査研究部会委員、各協力団体選出の委員、大学教員の検証協力者で構成します。検証協力くださる方は、必ずこの会議にご出席いただきます。

- (3) 会議の内容

モデルプログラムの構造・内容をご理解いただき、その活用方法、改善点等についてワークショップを通して議論します。1～5回は、モデルプログラムの説明・カリキュラム作成（WS）・研修内容のポイント（個別の指導計画/日本語の特徴/言語教育の理論と方法/日本語と教科の統合学習（JSL カリキュラム）/在籍学級での支援方法等から選定）の説明で構成します。2回目以降は、実施済みの団体か

らの簡易報告、結果のまとめ方（報告書作成）の説明も加わります。第6回は実施報告会とします。

#### （4）会議への出席について

上記（1）に示した会議のうち、2～5回目の内の1回と、6回目の実施報告会にご参加ください。この2回分につきましては、1名分の旅費と会議出席謝金を準備しております。

★旅費、謝金不要の場合は、出席の回数に制約はございません。何回でもご参加可能です。

### 4 申し込みについて

#### （1）申し込み方法

別紙1「モデルプログラム検証 大学・大学院での協力の申請について」に必要事項を記入し、E-mailにて送付し、申し込みを行うこと

#### （2）申し込み締め切り 2018年6月30日（土）17:00

#### （3）申し込み先（書類提出先） mo.mo.pro.model.program@gmail.com

※収集データ及び報告書等の取り扱いに関する留意事項について、お申し込みの時にご確認をお願いいたします。

### 5 依頼について

#### （1）依頼予定件数：3-6件

#### （2）申し込み多数の場合

モデルプログラム活用の可能性を検討するため、教員養成課程か日本語教師養成課程か、短時間の授業か1科目全体での検証か、地域はどういったところかなどの点から、多様な状況・条件での検証を進めることを念頭に、提出された書類に基づき、依頼先を決めさせていただきます。

#### （3）結果の通知：依頼先が決まり次第、速やかに申し込み者に結果を通知します。

### 6 その他

- ・検証事業への応募および参加は2018年度において公益社団法人日本語教育学会の会員である方に限らせていただきます。
- ・大学宛の依頼状が必要な場合は、依頼決定後にご連絡ください。

